

第4次国有林野事業流域管理推進アクションプログラム (網走東部流域)

1 流域の特色(国有林 243千ha、民有林 151千ha)

本流域は、総面積(595千ha)の約66%の394千haが森林で占められており、国有林は森林面積の約62%を占めている。

当流域の森林帯は、西側は汎針広混交林、東側は亜寒帯林で、垂直分布は海岸線は広葉樹が主体で、上流になるにしたがい針葉樹の混交割合が増し、トドマツ、エゾマツが優勢な林相に移行する。さらに、上部になるとダケカンバの混交割合が多くなり、最上部はハイマツ帯となっている。

知床、阿寒の2つの国立公園、網走国定公園、斜里岳道立自然公園があり、森林と海と湖が調和した景観を有する地域で、平成17年には知床半島地域が世界自然遺産に登録された。

2 流域内で優先的に取り組むべき課題

(1) 森林・林業の活性化

森林・林業・木材産業の振興に資するため、網走東部流域森林・林業活性化協議会等において地域の森林整備の課題、ニーズ等を把握し、事業運営に反映させるよう努める。

国有林材の計画的な供給を推進することにより、地域材全体の需要拡大と森林整備の担い手となる林業事業者の育成に努める。

さらに、路網及び低コスト高効率作業システムに係る民有林関係者との技術交流会の開催に取り組む。

(2) 下流住民等に対する普及啓発

学校、自治体、NPO法人、林業関係者等多様な団体と連携しつつ森林環境教育の推進を図ることとし、林業体験、森林教室等の取組を行うとともに、森林環境教育のためのプログラムの提供、森林インストラクター等の指導者の派遣、紹介等に努める。

また、国有林を活用した自然再生や生物多様性の保全等に取り組むNPO法人、森林環境教育に携わる教育関係者等への支援を行う。

3 国有林野事業に対する流域内のニーズ・要望

網走東部流域における国有林に対するニーズや要望を把握するため、公共機関(網走支庁、各市町、各市町の教育委員会等)及び林業関係者、NPO法人等にヒアリング等により、平成21年12月から平成22年1月にかけて意見聴取したところ、ニーズ・要望等が以下のとおり51件(複数回答)寄せられた。

なお、要望等は内容により、計画的な木材供給の推進、森林施業の効率化・共通化等の取組、林業技術の開発・普及・啓発、林業事業体の育成、安全・安心への取組、生物多様性保全に配慮した取組の推進、上下流の連携強化のための下流住民等に対する情報提供、林業体験活動等に区分した。

計画的な木材供給の推進（10件）

- ・ 公共施設や土木工事における地域材利用の促進
- ・ 土木工事における地域材を利用した工法に関する知識の共有
- ・ 地場産業（木工品製作）に用いる天然林からの大径木の安定供給
- ・ 森林管理署等におけるペレットストーブの導入
- ・ 木質バイオマス資源の低コスト供給及び木質ペレット利用のPR
- ・ 素材システム販売の拡充及び立木安定供給の復活
- ・ カラマツ材の供給減（需給アンバランス）に応じた国有林による需給調整
- ・ 森林認証材の利用促進PR 外

森林施業の効率化・共通化等の取組（5件）

- ・ 森林認証の取得に関する地域の取組への参画
- ・ 伐採、造林などの長期的な計画量の情報提供
- ・ 民国一体となった施業の共同化

林業技術の開発・普及・啓発、林業事業体の育成（7件）

- ・ 低コスト造林地の造成実証試験の実施
- ・ 低コスト作業システムに関する情報交換会の開催
- ・ 林業事業体を対象とした労働災害防止対策に関する研修会の開催
- ・ 雇用対策による林業事業体及び林業従事者の雇用の安定化
- ・ 「低コスト作業システム」「効率的な路網整備」「低コスト造林」等のモデル林の設定と整備
- ・ 林業事業体への計画的な一定量以上の事業発注

安全・安心への取組（3件）

- ・ 森林被害や林業用施設（治山・林道）被害が発生した場合の情報の共有化
- ・ ハザードマップの整備
- ・ 林道の早急かつ計画的な改良工事の推進

生物多様性保全に配慮した取組の推進（5件）

- ・ 林地保全、保残木保護や河川環境に配慮した施業の推進
- ・ ワツカ原生花園の保護管理（病虫害防除ほか）への協力
- ・ 野生動植物の生息・生育調査の実施
- ・ 病虫害・鳥獣害対策や生物多様性保全に配慮した山づくり
- ・ 野生動植物及び鉱物に関する調査の実施

上下流の連携強化のための下流住民等に対する情報提供、林業体験活動等 (19件)

- ・植樹祭・育樹祭の参加者増を目視した行事内容の充実
- ・森林環境教育の教材(各種樹木の標本等)の開発・提供・作業用具貸与
- ・教職員研修プログラムにおける森林体験(枝打ち等)研修の支援(講師派遣)
- ・ワッカにおける「森林の成り立ち」に関する教育プログラムの作成
- ・レクリエーションの森等における施設(登山道、駐車場等)の整備
- ・給水施設上流において事業を実施する場合の事前の情報提供
- ・天然林伐採の意義・必要性に関する普及啓発
- ・オホーツクみどりネットワークへの積極的な参画 外

その他(2件)

- ・国有林野事業に対する流域内のニーズ・要望の定期的(毎年)な聴取
- ・森林セラピーのPR

4 国有林野事業が率先して行う取組

計画的な木材供給の推進

ア) 目標

- ・国有林材の計画的な供給を推進することにより、地域材全体の需要拡大等に努める。
- ・未利用材利用等木質バイオマス資源の需要拡大に資する取組

イ) 連携・協力機関

森林・林業活性化協議会、オホーツク総合振興局、網走東部森づくりセンター、各市町、木材関連業界、森林組合等

ウ) 取組方向

- ・システム販売による安定的、計画的な木材供給
- ・オケクラフト等の地場産業に不可欠な大径材の供給
- ・木質バイオマス資源の需要拡大に応じた林地残材等の活用に向けた取組

森林施業の効率化・共通化の取組

ア) 目標

- ・民国連携してオホーツクブランドの確立に努める
- ・森林整備協定締結等による森林共同施業団地設定の推進

イ) 連携・協力機関

森林・林業活性化協議会、オホーツク総合振興局、網走東部森づくりセンター、各市町、木材関連業界、森林組合等

ウ) 取組方向

- ・オホーツクブランドに関する地域の取組に参画
- ・森林整備協定締結等による森林共同施業団地設定の取組
- ・低コスト高効率作業システムの確立に向けた民国連携の現地検討会等の開催

- ・低コストで崩れにくい作業道などを主体とした路網整備の取組

林業技術の開発・普及・啓発、林業事業体の育成

ア) 目標

- ・技術交流会を開催し、林業技術の開発・普及・啓発を図り森林整備の担い手となる林業事業体の育成強化に資する

イ) 連携・協力機関

森林・林業活性化協議会、オホーツク総合振興局、網走東部森づくりセンター、各市町、木材関連業界、森林組合等

ウ) 取組方向

- ・造林コストの低減、間伐等の作業効率の向上、安全確保等に関する技術交流会の開催
- ・施業モデル林設定の取組

安全・安心への取組

ア) 目標

- ・大規模な森林被害等が発生した際に情報を共有化することで、地域住民の安全・安心の確保を図るとともに、治山技術の普及啓発に取り組む

イ) 連携・協力機関

オホーツク総合振興局、網走東部森づくりセンター、各市町、木材関連業界等

ウ) 取組方向

- ・森林被害や林業用施設（治山・林道）被害が発生した場合の連絡体制の整備
- ・治山技術の普及・啓発活動の実施

生物多様性保全に配慮した取組の推進

ア) 目標

- ・各種機関との連携の下で、森林病虫害対策等及び高山植物等の保護巡視活動に取り組む、生物多様性保全を図る
- ・エゾシカ対策の推進

イ) 連携・協力機関

環境省、オホーツク総合振興局、各市町、各漁業協同組合、木材関連業界、自然保護団体等

ウ) 取組方向

- ・羅臼岳・斜里岳登山道の植生保護活動及び啓発活動
- ・ワッカ原生花園の保護管理（病虫害防除ほか）への協力
- ・森林美化活動への協力
- ・エゾシカ対策の実施

上下流の連携強化のための下流住民等に対する情報提供、林業体験活動等

ア) 目標

- ・ 各種機関との連携の下で、植樹祭、育樹祭及び森林環境教育等に取り組み、森林・林業の重要性に関し、次代を担う子供をはじめとする地域住民の理解を深める
- ・ 知床の森林における協働モデル事業の取組及び知床の森林の情報発信

イ) 連携・協力機関

オホーツク総合振興局、網走東部森づくりセンター、各市町、教育関係機関、森林ボランティア団体、各漁業協同組合等

ウ) 取組方向

- ・ 植樹祭・育樹祭の実施・協力
- ・ 森林環境教育の実施・協力
- ・ 世界自然遺産地区である知床の森林において、協働モデル事業に取り組むとともに、知床の森林に関する様々な情報発信に取り組む

流域名・流域番号	網走東部流域(012)	担当部署	網走中部森林管理署 網走南部森林管理署
計画期間	平成22年4月1日～平成25年3月31日		